



体験教育

編集／体験教育編集委員会
発行／学校法人 明星学苑
東京都府中市栄町一丁目
〇四二二六八五二二
制作／信濃印刷(株)

目次	
幼稚園	豊かな遊びや体験を通して
年少組	2
年中組	2
年長組	4
小学校	
一年生	初めての校外学習
二年生	「静」と「動」を大切に！
三年生	みんな楽しみり初めての学習
四年生	「体験教育」
五年生	環境について。土と土壌の違い
六年生	最高学年を迎えて
運動会	みんなのできた運動会
8	7
7	6
6	5
5	5
4	3
3	2
2	2
中学校・高等学校	
学びの実現	中高一貫二年担任 旦野 成章
Hymn siement(笑顔の種)	9
校外学習を終えて	中高一貫一年一組 奥村 愛美
小田原研修で得た事	中高一貫二組 橋本 大輝
班行動の大切さ	中高一貫三組 桑山雄之介
校外学習で学んだこと	中高一貫四組 貞松萌愛奈
鳩とメロンパンと英語	中学三年一組 杉原優太郎
将棋部の活躍	中学三年二組 高丸 記佳
江ノ島校外学習の学び	高校一年八組 新田さくら
校外学習での学び	高校一年九組 難波 幸来
ボッチャ体験	高校二年十組 住吉 晴人
MGS高校三年生研修旅行	高校二年十一組 柳澤 佑武
高校三年十一組	グローバルコース 齋藤すみれ
高校三年十二組	サイエンスコース 高嶋 弥生
女子ハンドボール部	高校三年十三組 スーパーコース 鈴木 ひな
高三本科探究プロジェクト「Fallen Leaves」	高校三年五組 安陪 日彩
三年ぶりの体育祭	高校三年九組 池田 日成
国際美術大賞展「大賞」	高校三年二組 東 花奈
三年ぶりの体育祭	高校三年八組 藤原 楓
国際美術大賞展「大賞」	高校三年三組 藤 大輔
三年ぶりの体育祭	高校三年十組 矢野 雄大
16	16
15	15
15	15
15	15
15	15
14	14
14	14
14	14
14	14
13	13
13	13
12	12
12	12
11	11
11	11
10	10
10	10
9	9
9	9
9	9
8	7
7	6
6	6
5	5
5	5
4	3
3	2
2	2

豊かな遊びや 体験を通して

新年度が始まり、新しいクラス、新しい友だちとの生活がスタートしました。年少組のお子さんは保護者の方との涙のお別れも経験し、少しずつ自分の好きな遊びを見つけながら、初めての園生活の第一歩を踏み出しています。進級した年中組・年長組さんも多少の不安と共に一つ大きく変わった喜びを表現し、友だちとの関わりを楽しむ姿が見られます。

明星幼稚園では一人ひとりが日々の園生活を楽しく過ごし、その中で自分の「好きなこと」を一つでも多く見つけられるよう『めばえの時間』として三つの柱

【伝える力を養う「コトバ」体験】

【科学の心を養う「なぜだろう」体験】

【豊かな感性を養う「創造力」体験】を軸にカリキュラムの設定を行っています。また、年長組は就学前活動として明星小学校の先生方との触れ合い活動『のびのびタイム』を定期的に設定し、遊びの中で数や図形に触れたり、様々な事柄に好奇心を持って取り組む姿勢を育てながらスムーズな就学へのステップを踏めるようサポートしています。

三年間の園生活の中では、クッキングや制作活動、表現活動など豊か



クレヨン指導
画用紙に好きな
絵を描きました。

年少組



「きゅうり 大きくな
ったかな？」野菜の生
長をみんなで観察中

給食もたくさん
食べています。
みんなで食べる
と美味しいね！



“動かないでね”
お友だちのボタン
のお手伝い



先生が読んでく
れる絵本大好き！
「今日の絵本はど
んなお話かな？」



年長組のお姉さ
んが朝の挨拶の
見本を見せてく
れました。



クラスみんなで
枝豆の種まきをし
ました！

自分たちで水やり
をしているよ！



な活動と遊びを通して、様々な事に興味・関心を持ち、感じたことを伸びやかに友達たちや保育者に表現できる環境を整えています。自分の好きな事を見つけながら豊かな園生活を送れるよう努め、明星幼稚園の教育目標である『多様性を認め、未来を切りひらく子の育成』につなげていきます。

年中組

バケツ稲の芽出しを
観察しています。



自分の図鑑を持
って学苑内散策
に行ったよ！

自分のレジャーシ
ートを敷いて園庭ラ
ンチをしました！



総合絵本について
「お仕事なりきりポスター」
でパティシエになりきりました！



クラスみんなで力を
合わせ、こいのほりの
掲揚をしました

年長組



学苑内散歩では人や自
然に触れながら伸び伸
びと過ごしています



クリエイティブ・キューブ(磁
石ブロック)では、みんなで作
造することを楽しみながら、思
考力や協調性を育てています



始業式。年長さんらしく
“みなしずか”(凝念)

毎月の総合絵本(個人持ち)は、
新しい発見や楽しい制作活動が
あり、喜んで取り組んでいます



走ったり跳んだり道具を使
ったりして体を動かす、運
動遊びを行っています



初めての校外学習 一年生

五月二十三日(月)一年生は入学後、初めての校外学習に出かけました。

ここ二年間は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、五月の校外学習は中止になりましたが、久しぶりに

学外での活動ができました。涼しい日が続いていましたが、当日は晴れ

間がぞくぞく蒸し暑い日となりました。体力面での心配をよそに、元気に

到着です。旧国分寺跡を抜け、現在の国分寺まで到着すると、「こ

こが駅の名前になつての国分寺なんだね。」と

いう声が聞こえました。自分たちの使っている駅と関連した建物に感動

している様子が見られました。

お鷹の道ではホタルの棲む川の看板に興味津々です。「カワニナってなに?」「貝のことだよ。」「なんで

ホタルなのに貝?」「ホタルって貝なの?」そこで虫博士が「ホタルの幼虫がえさにして食べるんだよ。」

「水が流れて川になっているけれど、ここで行き止まりになっているね。」

「どこから水が出ているんだろう?」



「なにかお水を調べている人がいるね。何しているのだろう?」「薬を入れてるよ。」実際に保健所の方が湧き水の水質検査を行っていました。友だちや他の人との関わりの中で、子どもたちは、ちょっとした探究の基礎を培っているのです。

お鷹の道から階段を上がり、高台にある武蔵国分寺公園へ向かいました。広々とした芝生の公園に、大きな

木々があり、その下で遊んだり、虫や綺麗な花を見つたりと、笑顔が溢れていました。また、噴水を見て

いた子どもたちから「うわあ、きれいな鳥。」

という声が上がりました。その目線の先には、なんと、青く光るカワセミがいました。東京でもきれいな水

辺のあるところでないとなかなか見ることができない鳥です。運良く飛び立つ場面を見ることができたクラスもあつたようです。

子どもたちなりの発見・いろいろな体験を、その後の時間に絵や文でまとめました。その時の様子は、京王バスのギャラリバスとして府中

国分寺間を往復していますので、宜しければご覧ください。

(文責 一年生)



二年生

「静」と「動」を大切に!

くぬぎの時間に、学校園で夏野菜を育てています。ミニトマトは全グループごとに育てたい野菜を決め、

ピーマン、キュウリ、トマト、ナスなどの苗を植えました。子ども

達は、くぬぎの時間だけではなく、休み時間

に水やりに行ったり、雑草抜きに励んだり、お

いしい野菜ができるように願いを込めてお世話をしています。

畑での作業のお楽しみは、これだけではありません。畑に遊びに来る虫にも興味津々です。土の中から幼虫が出てくると「こ

れは、カブトムシの幼虫かな?」「何を食べるのかな?」

と始まります。虫が苦手ですが、虫かごに入れば安心と、教室で飼うことにしようと盛り上がることもあります。

このような、体をいっ

くぬぎの時間に、学校園で夏野菜を育てています。ミニトマトは全グループごとに育てたい野菜を決め、

ピーマン、キュウリ、トマト、ナスなどの苗を植えました。子ども達は、くぬぎの時間だけではなく、休み時間

に水やりに行ったり、雑草抜きに励んだり、おいしい野菜ができるように願いを込めてお世話をしています。

畑での作業のお楽しみは、これだけではありません。畑に遊びに来る虫にも興味津々です。土の中から幼虫が出てくると「こ

れは、カブトムシの幼虫かな?」「何を食べるのかな?」と始まります。虫が苦手ですが、虫かごに入れば安心と、教室で飼うことにしようと盛り上がることもあります。

このような、体をいっ

くぬぎの時間に、学校園で夏野菜を育てています。ミニトマトは全グループごとに育てたい野菜を決め、



ばい使った活動とは打って変わり、国語の授業で、一月の書き初めに向けた、視写の練習が始まりました。二年

生は、一年生の書き初め会からレベルアップし、鉛筆からフェルトペンになり、名前は全員、漢字で書きます。緊張した面持ちで、一文字一文字、丁寧に書き進める姿が見られます。一枚仕上げ

るのに二十分以上かける児童もおり、出来上がった時には大きなため息を漏らしています。

休み時間や畑の活動で外へ飛び出していく姿、じつくり、ゆつくり取り組む姿、静と動のめりはりを大切にして、学校生活を送っています。

(文責 二年生)

くぬぎの時間に、学校園で夏野菜を育てています。ミニトマトは全グループごとに育てたい野菜を決め、

ピーマン、キュウリ、トマト、ナスなどの苗を植えました。子ども達は、くぬぎの時間だけではなく、休み時間

に水やりに行ったり、雑草抜きに励んだり、おいしい野菜ができるように願いを込めてお世話をしています。

畑での作業のお楽しみは、これだけではありません。畑に遊びに来る虫にも興味津々です。土の中から幼虫が出てくると「こ

れは、カブトムシの幼虫かな?」「何を食べるのかな?」と始まります。虫が苦手ですが、虫かごに入れば安心と、教室で飼うことにしようと盛り上がることもあります。

このような、体をいっ

くぬぎの時間に、学校園で夏野菜を育てています。ミニトマトは全グループごとに育てたい野菜を決め、

ピーマン、キュウリ、トマト、ナスなどの苗を植えました。子ども達は、くぬぎの時間だけではなく、休み時間

に水やりに行ったり、雑草抜きに励んだり、おいしい野菜ができるように願いを込めてお世話をしています。

畑での作業のお楽しみは、これだけではありません。畑に遊びに来る虫にも興味津々です。土の中から幼虫が出てくると「こ



三年生 みんな楽しみ♪ 初めての学習

★初めての理科★

三年生になり、初めて学習する教科があります。まずは、二年生のころから楽しみにしていた理科です。現在世の中では、理科離れが進んでいるということで、少しでも理科が好きな子が増えてくれるように、三年生の理科では教科書の学習とは他に、「わくわく理科実験」と題して、楽しい実験を行っています。最初は、スーパースポールづくりを行いました。子どもたちは、自分で洗濯のりと飽和食塩水を混ぜてとても楽しそうにスーパースポールを作っていました。次は、「水と油は混ざるのか?」という実験を行い、最後に入れ歯洗浄剤を入れて、マグマが噴火したかのような状態にして、楽しく学習しました。その他にも、片栗粉と水を混ぜて「ダイラタンシー」という現象を遊びを通して学びました。子どもたちは、毎回、「次は何の実験をするの?」と聞いてくるようになり、理科が好



きな子が増えたのかと嬉しく思います。

★初めての社会★

初めての社会では、学苑の周りには何があるのかという学習で、「学苑探検をしよう」と題して、屋上から学校の周りを見たり、実際に学苑の周りを探検しに行ったりしました。子どもたちは毎日通っている道にもかわらず確認しながら歩くと、「こんなところにこんなお店があったんだ。」

「この道の名前、初めて知った。」と、自分たちの学校の周りには何があるのか改めて知ることができ、知識を広げていました。



★初めての書写★

初めての書写では、まず道具の名前や使い方、半紙の表裏、筆の持ち方などを学びました。初めてのことで緊張している子が多く、墨を出すときには墨を少しだけしか出さず、筆につけたらすぐに無くなってしまいました。

子どもたちは、そんな様々な体験を積み重ねることによって「自信」がつき、大きく成長していきます。「初めて」から「自信」へ、今後の成長が楽しみです。(文責 三年生)

四年生

四年生は、新型コロナウイルス感染症の影響で、二年生から校外学習ができませんでした。四年生は、全学年の中でも校外学習が多く、体験を通して学習することができ、学年です。今年度は、感染症対策を行いながら、子どもたちに様々な体験を通して学びを深めようと学年で計画をしています。

＜秋水園「ごみ処理場」＞

五月十九日(木)に、東村山市のごみ処理場、秋水園へ行ってきました。

まずは、ごみの重さを量る場所を見学しました。ごみ収集車が台に載ると何キログラムあるかが表示されるのです。すると、子どもたちから様々な声が聞こえてきました。「そんなにこみってあるの。」「なんでごみの量を量るのかな。」「こんなたくさんのごみはどこにいくのかな。」子どもたち同士でどんな考えを深めていました。次に、ごみが集められる場所に入った際、そのにおいの強さに思わず顔をしかめたり、鼻をつまんだりしている子が何人もいました。ごみが集積されている場所も特別に見せていただく、子どもたちはその量の多さに大変驚いていました。その後、リサイクルセンターや不燃物処理場、実際に焼却する場所、瓶や缶の分別するところなどを



深い体験をすることができ、充実した校外学習になりました。

＜水道キャラバン＞

六月九日(木)は、東京都水道局主催の出前授業「水道キャラバン」を体験しました。これも、社会で学習している内容を実際に見て体験する学習でした。「水道水源林」という名前はわかって、どのようにして雨が地面の中にしみていくのか。子どもたちは、簡単な実験を目で見て体験することにより深く理解していました。また、水に関する知識をクイズ形式で説明してくださり、楽しみながら学びを深めることができました。



いずれも体験のあとには、新聞にしてまとめる学習を行います。体験を通して情報をインプットし、新聞作成を通して相手にわかりやすく情報をアウトプットする。このようにして自分の考えを深め、あう学習を今後行っていくと思います。(文責 四年生)

五年生 環境について。土と土壌の違い

★初めての体験★

五年生になり、学年のくぬぎの時間では環境をテーマに探究をしていくことになりました。

明星小学校には、豊かな自然環境があり、まずは学校を高学年の視点で歩いてみました。すると以前は見つけられなかったような小さな動物植物の痕跡や「こんな植物が生えていたんだ！」などという発見が得られました。



そこから、土に注目した五年生は土と土壌の違いや土壌の働きなどを学び、実際に観察してみることに。

手触り、におい、見た目など五感をフル活用していました。今回観察したのは荒木田土という土ですが、「さらさらしている」「雨の日の土の匂いによっと草のにおいもする」「すり鉢ですりつぶしたみたいな細かさだ。」



など土一つでたくさん発見がありました。

いざ、その土を手のひらに出して泥団子作りの開始です。はじめは慣れない泥の感触に戸惑う児童も少なくありません。しかし、次第に固まってくる様子が夢中になっていきました。水が多いとどんな手触りになる。少ないとどうだろう、そんな探究する姿も見られました。

最後にそれぞれが持ち寄った道具を使って、どうしたらより光るかと研究が始まります。スプーンの背を使う子、瓶の中に入れて回す子。少し濡らしてみる子などお互いの方法を学び合ってピカピカの泥団子を作ることができました。すると、「においが変わった。」「硬さも硬くなっている。」「磨いたところの触り心地が違う。なんでだ？」などと新たな発見や疑問が生まれました。



環境をテーマに、自分たちで課題の発見、探究をしていく姿にこれらが楽しみです。(文責 五年生)

「六年生、最高学年として下級生のお手本となるように!」

六年生の子もたちが、目指している姿であり、多くの先生方から言われる言葉でもあります。

そんな期待に六年生も応えるべく、四月から多くの仕事を任されて、頑張っています。

新年度早々、入学式では一年生の入退場のサポート、そして、小学校校舎までの案内を行いました。緊張する一年生を笑顔にしたり、お話を優しく聞いてあげたり、自分のことを後回しにして、一生懸命お世話することができました。

入学式は、一年生にとって大事な行事ですが、六年生にとってもよい経験ができる行事の一つです。年少者の面倒を見ることが、自分の成長を感じたり、振り返ったりすることができるようになります。



それから、委員会活動。昨年と違う点は、六年生が各委員会の委員長になったり、児童会会長・副会長として学校全体を引

6年生 最高学年を迎えて

つ張っていったりする活動が始まったことです。

六年生が学校の中心であると自覚し、六年生が描く理想の形に近づけようと話し合ったり、下級生を動かしていかうと呼びかけをしたりして、活発に進めています。

そして、五月に行われた大きな行事、運動会では、チームを引つ張る応援団、運動会を盛り上げる実況放送、スマーズに進行させる用具の準備、勝敗・準備を確認する決勝と、それぞれが係に就いて働くことができました。

当日は、天候にも恵まれて予定通り進行し、全校児童の歓声とともに大成功に終わりました。これには六年生の活躍が大きく寄与しています。

中学校に進学すると一年生になり、学校での立場が一変します。しかしながら、それに甘えず、今年の経験を自信に替えて、早くから様々な場面で活躍してほしいと願っています。



(文責 六年担任)

運動会

みんなでできた運動会



五月二十八日(土)、三年ぶりに運動会を行うことができました。一、三年生が一、二時間目、四、六年生が三、四時間目に競技を行うという制限はありましたが、保護者の方の参観や開閉会式の実施、全学年が校庭に出て選抜リレーを応援するなど以前の運動会に近い形で実施することができました。

一年生は、「中玉運び」を行いました。二、三人一組になって中玉を転がしながら運んでいくこの競技は、ペアと息を合わせることが重要です。入学して間もない一年生は練習を重ね、本番に一生懸命中玉を運んでいました。



二年生は「中玉神輿」を行いました。一年生よりさらに人数を増やし、協力しながら中玉を運びます。どのクラスも本番は、チームワークよく声をかけ合っていました。



三年生は「ダッシュ中玉入れ」を行いました。本番までに、誰がどのコースを走るか、誰を前にするかなど何度も作戦会議を繰り返していました。「勝ちたい!」という気持ちがどのクラスにも見られました。



四年生は、「綱引き」を行いました。「どうやって綱を引けばいいのかわからない。つな引きの動画を見て、練習しているクラスもありました。」



五年生は、制限時間内に何回長なわ八の字跳びを跳べたか競う「長なわ連続跳び競争」を行いました。回し手のタイミングや跳ぶタイミング。メンバーをどのように振り分けるのかも子どもたちで話し合いました。



そして、六年生は、「ハリケーン」を行いました。棒を運ぶだけでなく、待機している列の足の下をどうやって棒をくぐらせるか考える作戦を練るのは非常に難しいことです。本番に、流れるように棒を回す六年生の姿は、それまでの努力と協力の証だと感じました。

クラス代表がそろって走る「チーム選抜リレー」では、全校児童が見守る中、堂々とした入場と力強い走

りを見せてくれました。何よりも、その代表を全校児童が思い切り応援し、一喜一憂する姿に全校で取り組む運動会のよさを心から感じました。



今年度の運動会では、僅差で竹組の優勝となり、幕を閉じました。勝ったこと、負けたことに喜ぶ姿と悲しむ姿が入り混じる閉会式は、まさに子どもたちの心が動いた瞬間でもありました。

保護者の皆様には、お忙しいところ、また人数制限がある中、温かいご声援いただきありがとうございます。今後とも、子どもたちの教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

(文責 体育科)

学びの実現

中高一貫二年担任 巨野成章

今年度より明星中学一・二年生では、エナジードという教材に取り組んでいます。

エナジードとは、7つのテーマに分割された次世代型のキャリア教育・道徳教育教材です。

テーマ毎に、自らが「よりよく生きること」「どのように生きていくのか」を考えます。日常に溢れる答えの無い問いに対して、それぞれが自分の考えを発表します。

例えば、2つ目のテーマの「実現力」では、描いた未来を実現する力について考えます。何かにチャレンジ、挑戦する時、「できない理由」が真っ先に思い浮かびます。世の中であまりありません。そこでエナジードでは、「こうだったらいいのに、できないな」「無理だと思う」と感じた事について、まずはできない理由を明確にします。そして、できない理由をひっくり返すことによって、できる理由を作り上げるのです。具体的には「部活動の試合で勝つことができない」に対して、なぜ無理なのかを考えます。「練習に集中する環境が整っていないから」とできない理由がわかったら、それを

ひっくり返します。つまり、「練習に集中する環境を整えば良い」とできる理由が明確化されます。このように人生をより良く生きるための思考の枠組みを学んでいます。これをデキナイデキルと共通言語化して日常生活でも思考していくきっかけにしてほしいと思っています。

二年一組では、このような考えのアウトプットの場として、実際にクラスでの「課題・問題」や「こうだったらいいのに」に対して、自らアイデアを出し、実現できるよう考えています。既に、実現しているアイデアもいくつかあります。このように体験の場として、机上で学んだ事を実現できるようにしています。

明星中学校・高等学校での生活全体を通して、望む生徒の姿は、本校の新しい教育目標である『自分の未来を「デザイン」し、「共創」していきける人』である。このような学習をきっかけに社会や集団での役割を見出し、自らの生き方を、自らで選択できる生徒となって欲しいと強く願っています。

Hymn siement

(笑顔の種)

中高一貫一年一組 奥村愛美

「僕はただ平和に暮らして、ジャガイモと夢を植えたいただけなんだ。」

これは、ムーミンがある物語で口にした言葉です。この校外学習でこの言葉が私にとって大切な言葉になりました。

私たちは五月二十七日に埼玉県飯能市にあるムーミンバレーパークへフィンランドについて学びに行きました。あいにくの雨でしたが、そこでフィンランドの元大使館の方のお話を聞きネイティブの先生と一緒にパーク内を見学しました。元大使館の川崎さんのお話からフィンランドの環境や、人々の生活など、たくさんのお話を学びました。そして、降っていた雨もやみ、パーク内に入場すると、色とりどりの傘がつるされていて、顔を出した太陽と一緒に私たちを出迎えてくれました。そこをぬけるとムーミン谷の世界が広がっていました。私は、みんなでパーク内をまわりながらミッションに挑戦したり、ネイティブの先生にムーミンについて紹介したりして、英語だけでなくたくさんの方と話すことができました。私が特に印象に残ったのは、海のオーケストラ号です。いろいろなところに映像が映り、まるで自分たちも旅をしているようでした。そしてあつという間に時間がすぎていき初めての校外学習の帰り道では、水溜まりに映る雨上がりの青空と一年一組の生徒の笑顔が輝いていました。

た。私は六年間ずっとこの笑顔が色褪せないように、ムーミンの台詞のように毎日みんなの笑顔の種を植えていきたいと思いました。そして、一人一人が様々な経験を通してたくさんの太陽の光を浴び、みんなが明るい星になれるよう、学年推進委員として頑張ろうと思っています。

校外学習を終えて

中高一貫一年一組 橋本大輝



ほかたち一年一組は校外研修でムーミンバレーパークに行きました。今回は、まずムーミンシリーズの作者、トーベ・ヤンソンさんの故郷、フィンランドについてのお話を聞き、次にネイティブの方と一緒にグループでパーク内を回るといいうものでした。フィンランドについての話を聴く

とき、フィンランドの場所や気候など大まかなことは知ってましたが、サウナという言葉がフィンランドの言葉だということや、世界一幸せな国、男女平等が世界二位など、知らなかったことが沢山ありました。中でも一番おどろいたのはフィンランドの首相についてです。令和四年、六月十日現在のフィンランドの首相は、サンナ・マリンさん、なんと女性の首相です。しかも、三十四歳という若さで首相に就任しました。日本の歴代の首相に女性はいませんし、就任時の年齢が一番若くても四十四歳で、日本とフィンランドの社会の見方は大きく異なっているなと思いました。

次にネイティブの方とパーク内を

回ったことについてです。最初はち

ゃんと話せるかな、伝わるかなと不安でしたが、いざ話してみると意外と伝わり、また伝わったことについて

も喜びを感じられました。今まで仲間と一緒に頑張ってた学んできた結果が得られたということで、次の学習への意欲、英語を話す自信につながったと思います。これからの時代、

ぼくたちが大人になるころには、今よりもっと多くの人が身近に英語を仕事で使っていると思います。これから人生を歩んでいく上でとても貴重な経験になりました。

今回の校外学習で、世界と日本の違いや、これからも英語を使う上で大切な経験が得られました。この経験を今後の学習に活かしていきたいです。



小田原研修で得た事

中高一貫二年三組 桑山雄之介

小田原研修で、加藤憲一小田原前市長のお話を聞く機会がありました。加藤前市長はSDGに貢献するため、自分で荒れた畑を開拓し、田植えをして自給自足をしているそうです。

この話を聞いた時、僕には何ができるだろうかと考えました。そこで思い出したことがあります。僕の祖父の家では、薪でお風呂を沸かしています。早朝に、犬の散歩のついでに近くの海辺の公園に落ちている松ぼっくりを拾いに行きます。夏、



カラカラに乾燥した松ぼっくりは、パチパチととてもよく燃えるので、沸かしたお湯が体にまとわりつかず、サラサラになり、肌が荒れやすい僕でもさっぱりと入れます。再利用出来て省エネで、加えて体にも良い。まさにこれがSDGだと思いました。

現在、技術の進歩により生活はとても便利になっています。最新の技術もSDGには活かそうですが、日本に昔から伝わっている生活の知恵には、SDGがたくさんつまっていることを、加藤前市長のお話を通して気付きました。日常生活の中にSDGが他にも無いかな、もっともって探して貢献していきたいです。

班行動の大切さ

中高一貫一年四組 貞松萌愛奈

私たちは小田原に校外学習に行き

ました。そこで班行動の大切さを学びました。

実際にやってみて感じたのは、班で行動するのは思ったより難しいなということ。当たり前ですが、ひとりひとり違う人間である私たちが「班」として行動するには、意見をまとめなくてはいいませんが、そこが困難でした。特にその中で大変だったことがふたつありました。

ひとつめは班のメンバーの意見を合わせることです。今回の校外学習では行程で必ず決めないといけないことがありました。通るべきチェックポイントと、お昼を食べる場所です。チェックポイントは小田原駅とすぐに決まったのですが、お昼をイタリアンにするか海鮮にするかで意見が分かれました。お互いの意見をどうしたら統一できるか悩んだ結果、私は見方を変えることを思いつき、せっかく小田原に行くのだから、お昼は安く済ませて、小田原らしいことにお金を使った方がいいと提案しました。確かにその方がいいとメンバーも乗ってくれて、安い方に決めることができました。

ふたつめは時間配分です。班では行きたいところがたくさんありました。小田原には見所がたくさんあったからです。しかし、実際に動いてみると、地図で見るとより距離があっ



たり、班全員で移動するのに時間がかかったりと、予想外のことが次々に起き、ほとんど回れませんでした。これらの経験は失敗もあったのですが、私にとっては、人と何かをするには、協調性と計画性が大切で、それを意識しないとうまくいかないのだなと強く実感する大切な経験になりました。これからの中学生生活においても、この経験を活かして、人と調和し、一緒にたくさん経験を積んでいけるように、がんばりたいと思います。

校外学習で学んだこと

中高一貫二年一組 杉原優太郎

先日、私たち中学二年生は、校外学習で山梨県北斗市にある国際自然大学校日野春校へ行きました。この施設は、たくさんの木々に囲まれて

おり、様々なアクティビティが挑戦可能な見慣れない設備や道具に溢れていて、大きな期待と共に胸が高鳴りました。今回の校外学習では、この非日常の空間でそれぞれが挑戦し、チームで協力し合いながら、与えられたアクティビティやミッションをクリアすることを目指します。この活動を通して「生徒間の団結力を強化し、信頼し合う心を育成することが目的です。」

大きな木の板の上に全員で一斉に乗りバランスを保つアクティビティでは、一瞬のずれが失敗につながる

ので、阿吽の呼吸が試されました。また、ターザンロープを使って小さい島から小さい島へ渡るというミッションでは、小さな場所にうまく乗らなければならないので、みんなとの絆が深まりました。細かい綱を協力して渡るといふアクティビティも



ありました。今回の中で最も難しく苦戦しましたが、チームで案を出し合って攻略することができました。

このように1日チームの仲間と話し合い、協力し合いながらアクティビティに参加しました。本当に楽しい思い出となりました。

しかし、本来このような学びがあるのは、校外学習の日だけではないと私は思いました。なぜなら今回、学び、得る事ができた事というのは

日頃から得る事ができるものだからです。体験や学びとは非日常の時のみにチャンスがあるのではなく、日常に溢れているのだと気付くことができました。それに気づいた事が私にとって一番の学びです。

昨年度はコロナの影響で分散登校やオンライン授業、活動が規制されていたりと、クラスのメンバーとも対面での交流が多くありませんでした。しかし、今となっては良かったと思っています。「塵も積もれば山となる」という言葉があるように、たった1日の交流で満足するのではなく、日々の小さな積み重ねによってお互いにより厚みのある信頼を得ることができました。

今回の校外学習だけで信頼を得るのではなく、日常で信頼を積み重ねるからこそ、より強い団結力を生むのだと気付くことができました。本

当に楽しく思い出に残った1日であったと同時に、この事が校外学習で得た最も大きな学びだったのかもしれない。

鳩とメロンパンと英語

中学三年一組 高丸記佳

私たち中学三年生は、英語で話すという試練のもと浅草へ行ってきました。

一日目は班に一人ついてくれる留学生の方との自己紹介や英語のゲームでした。そこで、私はとある問題にぶつかりました。それは自分の言いたいことを英語で全然伝えられないということでした。授業で習った単語や文法を、いざ使おうとしても頭が真っ白になって何も浮かんできません。こんな調子で二日目の浅草が大丈夫なのかとても不安になりました。





した。
二日目になりいよいよ浅草で英語学習が始まりました。私たちの班はたくさんのお店に行くことにしていました。メロンパン、抹茶ソフトクリーム、揚げまんじゅうなど凄くおいしかったです。特にメロンパンはおすすです。外はサクサクなのに中はふわふわしていて、しかも大きい！ぜひ浅草に行ったら食べてみてください。ところで、食べ物のお話ばかりだなと思われたかもしれませんが、メインは英語です。浅草では一日目に引き続き、留学生の方と英語で話しました。浅草で最初のうちは全然話することができませんでしたがおいしい食べ物や浅草寺などを見るうちに、気づいたら少しだけ話しかけられるようになっていました。鳩は英語でPigeonと教えてもらい、鳩を見かけるたびに

Pigeonと言っていると留学生は幼稚園で歌う鳩の歌を覚えてくれました。そして最終日の三日目です。この日は、浅草で調べたことを英語でまとめて発表する課題がありました。その過程において、留学生の方と作り方について思い違いをしていることに気づきました。しかし、なかなか言い出せず友達と一緒に先生に頼ってしまいました。実は、私の班の留学生の方は体調不良で二日目の方とは違う人だったため私たちは人見知りをしてほとんど話せませんでした。発表こそ無事に終わりましたが少しもやもやしたものが残りました。三日間を体験してみて、英語が話せるようになったような、話せないような気がしています。やっぱり日常的には使わない言葉なので使うには勇気がいります。ですが、二日目の浅草では単語だけでしたが楽しい雰囲気です。このことから英語は日本語と同じ言語なのだと思います。これまでは英語は使うものではなく習うものだと思います。ところが、よくよく言われていたことを実感しています。

そして、「英語は教えていない」と留学生の方は言っていました。「教えていない」、自分が話しているのを聞いてみんなが答えようとする。話そうとしているだけだと。これは深い言葉だと私は思いました。まだまだ英語は話せないし、聞き取ることもできませんが、身の回りの物事を英語で考えてみたりするなど、ささいなことでも英語にすること努力し一つずつ積み重ねていきたいです。十一月には大阪へ英語研修に行きます。その時にも美味しいものを食べて英語も話せるように頑張りたいです。三日間、ありがとうございました。

将棋部の活躍

中学三年二組 新田さくら

中学三年生になり、コロナも治まってきて都大会が再開していることを知りました。これまで大会に出れなかった私は「出るだけ出てみよう」と思い、顧問の先生にお願いして応募してもらいました。中学生の女子で将棋を指している人は少なく、当日会場に行ってみると5人しかいませんでした。「もしかしたら頑張れば全国大会に行くことが出来るかも」と思い気合いを入れるのと同時に緊張感が高まってきました。午前中は1勝1敗という戦績でした。顧問の先生からは「3勝以上で全国大会出場が決定する」と言われ



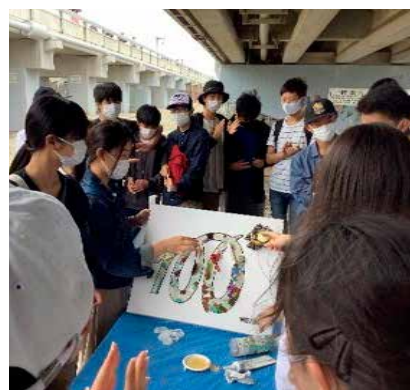
ていたのが、後がない状況になり、緊張感が増しました。けれども、ここで諦めてはいけないと思い、気持ちを切り替えて午後の対局に臨みました。その結果、午後の対局は2連勝することが出来、準優勝で全国大会出場を決めました。その時の嬉しさは今でも忘れることが出来ません。大会が終わってからたくさんの人にお祝いをいただき、改めてとんでもないことを成し遂げたのだと思いました。家族や応援していた人たちに良い結果を伝えることが出来るように頑張りたいと思います。

江ノ島 校外学習での学び

高校一年八組 難波幸来

八組は江ノ島に行きました。行きのバスではみんな和気あいあいと雑談をしたり、カードで遊んだり、寝

ていたりしているうちに、あっという間に江ノ島に着きました。江ノ島では海岸でゴミ拾いをして、その拾ったゴミでマイクロプラスチックアートを作りました、砂浜にはとても細かいプラスチックが落ちていて拾うのが大変でした。ゴミはしっかりとゴミ箱に捨てて、しっかりとサイクルをしようと改めて考えることができました。ゴミ拾い中は風がとても強く、みんなで髪をボサボサにしながら頑張ってゴミ拾いをしました。アート作りではみんなで「ここにこのガラス貼って、ここにライター貼っちゃう？」などと仲良くアート作りをすることができました。その後は班別で江ノ島や鎌倉を観光しました。鎌倉では小町通りで食べ歩きをして、抹茶のアイスやお団子、しらす丼などたくさん美味しいものを食べることができて楽しかったです。



五月二十六日に校外学習として浅草を散策しました。浅草寺界限には昔の建物が多く残り、横書きなどの右側から読む看板も残っていました。これらの保存には相当な維持費がかかっていることが想像できます。また、住民の中には保存に反対する人たちがいたかもしれません。

校外学習での学び

高校一年十一組 住吉晴人

す。その後は集合時間に間に合わないかもしれないとみんなダッシュで江ノ電に駆け込み、ギリギリで間に合いました。帰りのバスでは今日食べた物やお土産は何を買ったかなど話したり、爆睡したり、とっても楽しく帰ることができました。今回の学年デーを通して、私達は改めて海に流れ出るゴミの怖さやリサイクルの大切さを学ぶことができました。学んだ事を活かしてこれから生活していきたいと思います。

それでも伝統を守ろうという人たちがいたからこそ現存しているのだと思うと、感慨深いものがあります。その後を訪れたすみだ水族館では、多くの海洋生物を見ました。特にサメやエイが優雅に泳ぐ姿が印象に残っています。しかし、もし水槽のガラス越しでなく実際に海でサメに遭遇したら、恐怖しか感じない気がします。毒を持つクラゲが幻想的で美しく見えることにも考えさせられました。

私たちMGS二年生は府中市の連携事業の一環として、ボッチャを体験しました。みなさんは「ボッチャ」をご存じでしょうか。

ボッチャ体験

高校二年十一組 柳澤侑武

校外学習のテーマである江戸・東京の歴史を学んで、班行動を通して班員同士の仲も深まり楽しく充実した一日を過ごすことができました。

ボッチャは、元々運動をするのに障害がある人向けに考案されたスポーツの1つで、投げるカーリングに似た競技です。ボッチャは赤と青の玉をそれぞれ所持した2つのチームが対戦します。各チームは玉を6個所持しており、先攻は白色の目標球をコートの好きな場所に投げ、ゲ

でも参加しやすい競技です。やってみると投げる力加減が難しく、転がりすぎたり、全然届かなかったりとなかなかうまくいきませんでした。最後の一投で意外な場所にボールが転がったり、目標球にぶつかったりという逆転劇もあり、最後まで盛り上がりました。

チームが始まります。所持している全ての玉を投げ終わった時に、目標球に最も近い玉を投じたチームが勝ちになります。球技が得意な人もそうでない人も楽しむことができ、誰にでも参加しやすい競技です。



MG 高校三年生研修旅行

MG 高校三年生では、3クラスがそれぞれのコースの特色に合わせた研修旅行を催行しました。旅行の雰囲気や生徒の思いが伝わるよう、感想をご紹介します。

高校三年十一組 グローバルコース
〔京都・大阪〕
齋藤すみれ



コロナ禍で実施するのが難しい状態が続いていましたが、4日間の研修旅行すべてが新しい経験でとても楽しかったです。体験したこと・学んだことは本当にたくさんありましたが、改めて私が一番感じたことは、私たちはたくさんの方々に支えられていろいろなことが実現できて

いる、ということでした。日常を「当たり前前」と思わず、今回感じたような感謝の気持ちを今後も周りの方々に対して忘れずに持ち続けようと思います。

高校三年十二組 サイエンスコース
〔京都・大阪〕
高嶋弥生



自分の価値観を広げることが目的として、研修旅行に行ってきました。特に印象に残っているのはNASAゲームです。その中で、大人数でひとつの答えを出す難しさを実感し、お互いにながめ合うまで話し続けること、そして相手に自分の意見を伝えることの大切さを学びました。この研修旅行で得た経験を活かしていきたいです。

高校三年十三組 スーパーコース
〔宮崎〕
鈴木ひな



私たちのクラスは、研修旅行で九州の宮崎県延岡市に行ってきました。1日目は民泊で農業体験や座禅など日常から離れた刺激的な体験をすることができました。2日目は無人島でのサバイバル。釣りや島の散策を通して自然に触れ、夜はバーベキューをしました。3・4日目はフィールドワークで地方の問題について話し合いました。お互いに仲が深まり、とても充実した4日間でした。コロナ禍において遠隔などでの代替を余儀なくされた事柄がたくさんありましたが、「体験」には何物にも代えがたいものがあると改めて感じました。

じました。生徒の皆さんがモニター越しでなく直接に「体験」し、それぞれが感じ、考える機会として、有意義な研修旅行になりました。

女子ハンドボール部
「関東大会を終えて」
高校三年五組 安陪日彩



今回の大会で私たちは関東で3位という結果を残すことができました。正直このような結果を残せたことに自分達自身もあまり実感がありませんが、とても嬉しかったです。私たちの代は明星ハンドボールの歴史の中でもあまり強いとは言いがたい代だと私達自身周りからも思われていました。そういったこともあって先輩達が築き上げてきたところま



で勝ち進んでいけるか不安を感じている部分もありました。ですが、明星の伝統を継続させていくためにメンバー同士でよく話し、戦略的なプレーを意識して関東大会に臨みました。ここまで勝ち進んで行けた1番の理由は「気持ち」だったなと振り返ってみて思いました。試合前のみんなの勝ち気な目はすごく印象に残っています。試合の中でも雰囲気が悪いときにはみんなで声を掛け合ってお互いがお互いを励まし合って頑張れました。特に2回戦目、3回戦目で勝った時は飛び跳ねるほど嬉しく、勝ててよかったという安心感が強かったです。

決勝戦に上がるための試合では結果的には負けてしまいましたが、確実に自分達の成長に繋がった試合に

なっただと思います。勝ちたいという気持ちが大きかった分負けてしまったとても悔しかったので今の現状に満足せず、さらに高みを目指せるように頑張っていきたいと思っています。こういった成績を残すことができたのは指導をして下さった佐藤先生や、支えてくださった方がたくさんいたからこそで、そのことを今後もうれずに謙虚に練習に取り組んでいきたいです。

高3本科探究プロジェクト

「Fallen Leaves」

プロジェクトリーダー

高校三年九組 池田 成

活動内容…地域で廃棄されている落ち葉とビールの製造工程で発生し廃棄されている麦芽粕を地域のコミュニティと連携し、コンポスト(落ち葉と麦芽粕を入れる容器)を用いて堆肥作りを行っている。

きっかけ…自分の所属しているバスケットボール部の行事で行った、地域の神社の落ち葉清掃の際に、「トラックいっぱい量の落ち葉が廃棄されている事をしり、『もったいない』と思ったのが、きっかけでした。何気ない疑問からの行動が今では、企業や組織との繋がりを持つ程までに発展したので、行動力の大切

さを感じると共に、社会人の方達との関わりを持つ上での責任感の重みを感じました。

私たちが活動するのには、近年日本でも取り組まれている「脱プラスチック」の動きなど環境に配慮した活動が重視されている中で、まだ取り組みの輪が広がっていない、私たち学生でも取り組み事ができ、その後も続けられるような継続的な活動が必要であり、私たちのプロジェクトでは通常であれば焼却され廃棄されてしまう、落ち葉を堆肥化する事で有効資源として活用する事ができる地球にやさしい資源循環型のプロジェクトです。



高校三年二組 東 花奈

この活動をするうえでのがやりがいは、制限がなく自分たちの考えややりたいことを自由にできるということです。もちろん先生から多少の指

示があり完全に自由というわけではないですが、主体は私たちなので自分たちでやりたいことを思いついたら、吟味してそのまま実行に移すことができます。自分たち自身で考えたことだからこそ成功したときはもちろん嬉しいですし、失敗したときも身に染みて悔しい経験となり次へと生かす活力になります。自分たちだけで活動を進めるのは難しいことでもあります、その分楽しく、やりがいがあります。

高校三年八組 藤原 楓

私がこのプロジェクトを通して学んだことは、何にでも興味を持つことです。私自身、環境問題や落ち葉への興味はほとんどありませんでしたが、いざやってみると、あれ？意外と面白い！みたいな発見があつて、自分の中の視野がすごく広がりました。

高校三年三組 藤 大輔

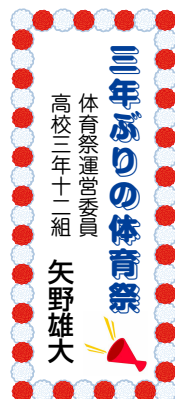
私たちは、堆肥化プロジェクトを通して論理的に人に伝えたいことを話すスキルを得ることができました。活動初期に行った校長へ向けてのプレゼンテーションで多くのことを話すすぎてしまい、上手に伝えられなかったということがありました。その後、多くのコンテストへの



応募を行いさまざまな視点からフィードバックをいただきました。改善を行い自分たちの活動の再認識をすることができました。失敗から学ぶことは多くあり、次回に活かすという考え方は今後の人生で役に立つスキルだと考えています。



新型コロナウイルス感染症の影響で昨年、一昨年は学年別での体育大会という形での開催でした。そのため、僕たち三年生にとっては最初で最後の体育祭でした。また生徒全員が、例年行なっていた体育祭を知らない状態からのスタートだったので、今思えば例年以上に大変だったのではないかと思います。運営委員会で競技について話し合っているときに新型コロナウイルス感染症の影響でこれまで行っていた競技が実施できないとわかりました。そのため、コロナ禍でも実施できる「UFO



Race」「超高速!? 参勤交代」「玉入れさせない」といった新競技を考え実施することにしました。何もない状態から競技内容を作成することはとても大変でした。しかし、ゼロから生み出していくことの楽しさもありました。たくさんの方々を支えていただいたおかげで体育祭を成功させることができました。委員長として、自分が体育祭を体験したことがない状態でもとめなければならなかったといった大変なこともありましたが、しかし、自分達が考えたことで体育祭を運営できているという楽しさもたくさんありました。無事に、コロナ禍で最初の体育祭という大きな一歩を踏み出すことができて良かったです。



日本選抜美術家協会主催の第四十六回国際美術大賞展で、高校二年十一組の小澤広隆君が、最高賞である「大賞」を受賞しました。

この国際美術大賞展は、自由で個性豊かな創意工夫について会派を超えて問われる美術展で、プロ・アマを問わず、多くの人が出品しています。その中で、本校の生徒が大賞を受賞できたのは非常に誇らしいこと

です。



作品「忿怒」は、木炭と日本画の技法を融合させ、新薬師寺伐折羅大將像をモチーフにしました。この伐折羅は、薬師寺如来を守護する役目があり、今にも敵に襲いかかろうとする様子を表現しました。描く上でこだわったのは、像に生命力を持たせる点です。(写真参照)

小澤君は、これまでも様々な美術展に出品しては、高い評価を得てきました。今回の受賞もあくまで通過点と捉えていて、これからも自分の納得できる作品を創り続けていきたいと意欲的です。